

降下ばいじん、加古川製鉄所 自主管理目標値（環境対策効果の予測値）
未達成について

加古川製鉄所では、08年4月から粉塵対策の効果を確認するため、降下ばいじんに関して製鉄所影響値 3.0t/km²/月以下（対象測定地点：加古川神鋼ビル、別府小学校、尾上小学校の3箇所）の自主管理目標値（環境対策効果の予測値）を設定し、その達成に注力して参りました。

しかし、このほど纏まりました7月の実績値において加古川神鋼ビルが未達成となりましたことから、その内容を以下に報告させて頂くとともに、今後の対応についてお知らせ致します。

地域住民の皆様には大変ご迷惑をお掛けすることとなりましたことを、深くお詫び申し上げます。

<加古川製鉄所 製鉄所影響値 10年度実績推移>

測定地点	単位	4月	5月	6月	7月
加古川神鋼ビル	t/km ² /月	1.43	3.12	2.75	3.14
別府小学校	〃	0.86	1.88	1.26	1.99
尾上小学校	〃	1.14	1.73	0.88	0.69

（出所：加古川市測定データ）

<加古川神鋼ビル 製鉄所影響値(不溶性降下ばいじん)、

09年7月と10年7月 成分比較>

成分項目	単位	09年7月	10年7月	差異
鉄分(Fe ₂ O ₃ 換算)	t/km ² /月	0.71	0.65	-0.06
強熱減量（植物・コークス・石炭成分など）	〃	0.62	0.70	+0.08
その他（土砂成分など）	〃	0.65	1.79	+1.14
合計（製鉄所影響値）	〃	1.98	3.14	+1.16

（出所：加古川市測定データ）

昨年7月との比較では、鉄分と強熱減量は概ね横這いでしたが、その他（土砂成分など）が増加しました。5月の降下ばいじん速報値で目標値未達成の結果を加古川市より受領した時点から、日々の粉塵パトロールに加え、緊急的にパトロールを強化し、発塵箇所の抽出と措置および設備の健全性確認を継続実施してきました。しかしながら、パトロールにおいても設備や操業の異常は確認されず、その他分の増加要因を特定するには至っておりません。

少しでも降下ばいじんを低減するため、コークス工場では大型吸引車両を増車し、清掃作業の強化を継続実施するとともに、道路自動散水時間の延長、散水車への給水能力強化、ベルトコンベア周辺への散水・清掃要員の増員を行っております。

尚、土砂成分などのその他につきましては、引き続き調査を行い増加要因を特定することにより、効果のある対策をとっていく所存です。

<尾上善則 常務執行役員 加古川製鉄所長 コメント>

本年度も降下ばいじん対策の実行に気を抜くことなく取組んできましたが、5月と7月において自主管理目標値を超過させてしまいました。大変申し訳なく、深くお詫び申し上げます。

関西熱化学とともに増加要因を調査し、粉塵対策を実行していくことで、安定して目標値を達成するべく注力して参ります。

以上